

# 令和5年度「地元の縄文」再発見プロジェクト事業 実施報告

木村 高\*・岡本 洋\*・山下 琢郎\*

## 1 事業の趣旨

世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の登録を契機に、「縄文」への関心は高まっているが、構成資産を持たない市町村<sup>1)</sup>にも素晴らしい縄文遺跡と遺物が多数あることを、一般県民はほとんど知らない。

考古学的な業務に携わる者ならば誰もが知っているこの事実を広く青森県民に知っていただくため、当センターでは、県内全市町村の縄文遺跡と出土品<sup>2)</sup>を活用した「地元の縄文」再発見プロジェクト事業を、令和4年度から実施している<sup>3)</sup>(図1)。

本事業は、出土品展示会・体験学習会・講演会・シンポジウム・カード・インターネット等を通じ、身近にある「地元の縄文」の価値や魅力を県民にわかりやすく伝えるとともに、青森に生まれた子ども達が「青森の縄文にふれた原体験」を誇りに思うことができるよう、授業で直接触ることのできる教材(実物の縄文遺物を使用)も制作し、郷土愛の醸成、地域の活性化、多様な人財の育成につなげることを目的とする。

## 2 事業構成の概要

本事業は「地元の縄文」の活用促進を目的とする「取組1」と、「地元の縄文」の魅力の再発見と情報の発信を行う「取組2」で構成されている(表1)。取組1は県(当センター)と市町村が連携して活用の仕組みを構築していくための地域連携会議の開催、教材の制作～市町村への配布、取組2は、「地元の縄文」再発見フェアの開催とあおもり縄文カードの作成、ホームページによる縄文遺跡と出土品の紹介である。

表1 事業の構成(令和4年度～6年度)

取組名	実施内容		事業費 (令和5年度)
取組1 活用促進	地域連携会議の開催(2回/年) 【開催地域】令和4年度：下北地域・中南地域 【開催地域】令和5年度：三八地域・西北地域 【開催予定地域】令和6年度：上北地域・東青地域	教材の制作(60セット/年) 【制作地域】令和4年度：下北地域・中南地域 【制作地域】令和5年度：三八地域・西北地域 【制作予定地域】令和6年度：上北地域・東青地域	
取組2 魅力再発見 情報発信	再発見フェアの開催(2回/年) ・出土品展示会・体験学習会 ・講演会とシンポジウム 【開催地域】令和4年度：下北地域・中南地域 【開催地域】令和5年度：三八地域・西北地域 【開催予定地域】令和6年度：上北地域・東青地域	情報の発信 ・あおもり縄文カードの作成 ・インターネットによる情報発信 【対象地域】令和4年度：県内全域 【予定地域】令和5年度：県内全域 【予定対象地域】令和6年度：県内全域	8,809千円

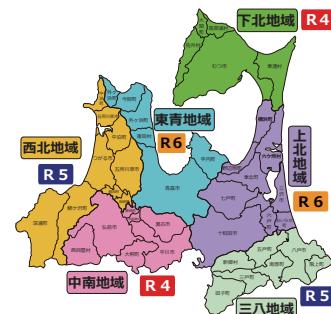


図1 6地域と40市町村および事業の実施年度

1) 青森県の市町村数は40であり、世界文化遺産の構成資産を持つ市町村は青森市・弘前市・八戸市・つがる市・外ヶ浜町・七戸町の6市町(15%)、構成資産を持たない市町村は34市町村(85%)である。

2) 本文中では文章の流れより、「出土品」という表現が相応しくない場合は、「遺物」と表現している。

3) 事業費の二分の一は文化庁による国庫補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費」を活用している。

### 3 【取組 1】活用促進

#### (1) 地域連携会議

県内の文化財活用をめぐる現状と課題を、県と地元自治体で情報共有し、活用の仕組みづくりに向けた協議を行うものであり、県内の6地域での実施（2地域×3年=6回）を予定している。

今年度は5月19日に青森県総合社会教育センターで行われた「市町村文化財保護行政担当者会議」において、当センターの所管事業説明と共に本事業の概要説明と前年度の実績報告を行い、連携の必要性を全市町村に呼びかけた。この後、7月と9月に県内の2地域（三八地域・西北地域）において地域連携会議を実施した（表2・写真1）。

会議では、本事業に関する詳細説明、開催地域におけるこれまでの発掘成果、出土遺物に関する概要報告、所蔵遺物の活用案の提示等を当センターが行い、「再発見フェア」開催地の文化財担当者からは埋蔵文化財の保護と活用に関する事例報告をいただいた。さらに、「再発見フェア」への協力体制について、市町村と協議した。

表2 地域連携会議の実施内容等（令和5年度）

開催日	対象地域	開催施設	説明 内 容	当日参加市町村
7月5日	三八地域 (第1回)	三戸町 中央公民館 (三戸町)	県埋文「「地元の縄文」再発見プロジェクトについて」 県埋文「三八地域における発掘調査成果と出土遺物」 三戸町教育委員会(野田尚志) 「三戸町における埋蔵文化財の保護と活用」	八戸市 三戸町 五戸町 田子町 南部町 階上町 新郷村
9月29日	西北地域 (第2回)	五所川原市 中央公民館 (五所川原市)	県埋文「「地元の縄文」再発見プロジェクトについて」 県埋文「西北地域における発掘調査成果と出土遺物」 五所川原市教育委員会(江戸邦之) 「五所川原市における文化財の保護と活用」	五所川原市 つがる市 深浦町 中泊町



写真1 地域連携会議（左：三八地域 右：西北地域）

#### (2) 教材の制作

昨年度に引き続き、小・中学校における社会科の授業等<sup>4)</sup>で活用可能な教材「あおもり縄文セット」を制作した。使用した遺物は全てが「実物」であり、「縄文」を視覚と触覚で直接的に体感することができ、1セットは土器破片40点以上<sup>5)</sup>、石器10～12点（石鏃・石匙・不定形石器・磨製石斧・凹石等）で構成されている（表3）。

表3 教材の内容等（令和5年度）

対象地域	遺物を抽出した遺跡	1セットの内容	制作数	配布対象市町村
三八地域	土器：泉山・笛ノ沢（3） 石器：泉山・西張平	児童・生徒用：土器破片40点 教師用：土器破片2～3点 石器10～12点	40 セット	八戸市・三戸町・五戸町・田子町 南部町・階上町・新郷村
西北地域	土器：千苅（1）・津山・新沢（2） 石器：千苅（1）・津山・餅ノ沢・塙沢		20 セット	五所川原市・つがる市・鰺ヶ沢町 深浦町・板柳町・鶴田町・中泊町

**【制作から活用までの流れ】**当センターが制作・配布→各教育委員会が保管→小・中学校で使用（学校は各教育委員会から借りる：各教育委員会は学校に貸し出す）とした。

**【令和4年度制作の教材】**令和4年度は、下北地域向けに22セット、中南地域向けに38セットの計60セットを制作し、令和5年度に両地域に所在する市町村教育委員会に配布した。小学校6年生の児童が授業で出土品を触った際の反応は以下のとおりである。

■土器を見て、いろいろな形があつて「昔どんな風に使っていたのか？」などの疑問がでおもしろいなと思いました。また、厚いのにもろいと教科書に書いていたのでなんでもなかとか、縄以外にも模様がつれそなのになぜ縄が多いのか知りたいです。 ■縄文土器は、厚くてもろいと教科書に書いてあつたんですけど、想像以上に固くてびっくりしました。磨製石器なども、初めてさわられたので、凄くうれしかったです。ほかにも、矢じりなども触れて良かったです。 ■今日、実際に土器や石器などをさわってみて、縄目模様に様々な種類があつて石器も打製石器と磨製石器の2種類の石器があつて、本物をみられて、嬉しかったです。その中で、たくさんの疑問も生まれました。これからもっと土器について勉強して、もっと土器について知りたいです。あと、三内丸山遺跡と埋蔵文化財調査センターの見学の時も、実際に土器をさわる事ができるので、じっくり見学したいです。 ■縄文土器をさわってみて、土器は厚くてもろいと書いていたけど意外と、厚くておどろきました。石器は、けっこうつるつるしてて、どうやってつるつるにしたのか、知ってみたいと、思いました。こんどまた見るときあつたらまた見たいです。 ■縄文土器や石器を見たり触ったりして、縄文土器の表面はつるつるしているかと思っていたけど模様やくぼみなどがあつて、全然つるつるしていなかつたことにびっくりしました。土器の中に何を入れていたのか、何に使っていたのかなどをもっと知りたいです。なので三内丸山遺跡や埋蔵文化財調査センターに行く時に聞いてみたいと思いました。 ■疑問に思った事がたくさんあつたけど、特に疑問に思った事は、縄文土器はなぜ縄の模様か気になつたので校外学習の時に聞いてみたいと思いました。それと土器の匂いが給食のおかずのような匂いがして面白かったです。 ■大きい土器だけだと思っていたけど、小さい土器もあつたので驚きました。あと、土器のさわり心地は、少しザラザラしていて気持ち悪かったです。石器はそこら辺に転がってる石より少し重かったです。 ■土器を触ったとき、もろいと思ってたけど、意外と固かったです。石器のやじりは、意外といいたかったです。いろいろ疑問などがあつたので、三内丸山遺跡と埋蔵文化財調査センター見学の時、質問したいです。教科書と違つた事実が、わかつたのでよかったです。見学のときも、くわしく観察などをしたいです。 ■今日、実際に触ってみて、予想してたより重くなかったり、しっかりしていたりして、驚くことがたくさんでした。それと同時に、なぜしっかりしているのにそんなに、重くないものを作れたのだろうという疑問も浮かんできましたので、見学に行く時に知れたら良いなと思いました。 ■実際に縄文土器や石器を見たり触つたりして、ちゃんと1個ずつ模様が入っていることに驚きました。教科書ではよくわからないことも触ってみることで、わかって面白いと思いました。見学に行くときに、説明をしてくれる人の話をちゃんと聞いて、縄文土器についてもっとくわしくなりたいです。 ■縄文土器は教科書で見たのより、本物は大きかったり固かったです。石器は普通の石より固くて丈夫な物が使われていて、昔の人は賢いなと思いました。矢じりは想像してたよりも鋭くて少し怖かったです。そもそも、なぜ縄の模様なのか気になりました。 ■縄文土器や石器を触ってみて、矢じりがとがっていて”優しく”触ってみたら、痛くて固かったです。優しく触つても痛かったのに、勢いよく投げたら、凄く痛いということを知れてよかったです。それに、矢じりを使って食料を取るために狩りをしていましたというふうに思いました。土器のことに興味をもてたので、家で土器のことについて詳しく調べたいと思います。 ■今日、土器は厚くてもろいと聞いていたけど、実際に触ると案外固くてびっくりしました。触った感触や色や形も少しずつ違つていたので、今度、見学に行って、もっと、いろいろな事を調べてみたいと思いました。 ■実際にさわってみて、縄文土器では、上が薄くて下が厚かった。また、縄文土器では、いろんな縄目模様があつて、すごいと思いました。石器では、矢じりとか痛くて重かったです。また、つるつるしているかと思ったら以外とでこぼこだった。 ■縄文土器は全体的にざらざらしていて、後から付け足してそれにも縄の模様がついていました。石器は表面が刃物で切ったみたいな感じになっていたので、刃物で切つたりして作ったのかと思いました。 ■意外と薄いものや固いものがいっぱいあって、教科書やプリントなどのものとちょっと違つたので、驚きました。あと矢じりの先が思ったよりとんがついて、びっくりしました。見学を行つたとき、また違うことを見つけたいです。 ■意外と矢じりがとがっていて、それが飛んで来たら怖いなと思いました。他には、縄文土器は固くてもろいと教科書に書いていたけれど、固かつたのでびっくりしました。触つて疑問に思ったことは、矢じりなどをとがらせるにはどうしたらいいのかと思いました。 ■土器だから、土の感しょくがあったけど、普通の土と全くちがう感しょくだったので、この作りは、想像をこえるぐらいだったので、もっとよく、縄文時代のことを調べたいと思いました。 ■縄文土器や石器をさわってみて、厚さがけっこうばらつきがあつてびっくりしました。縄目の模様が意外とくっきり出ていて、縄目模様もそれぞれ違つていて見るのが楽しかったです。疑問が縄文土器はつくるのに何度も何分かかるのかという疑問です。見学に行くときは、説明をしっかり聞いて、この疑問を聞いてみようと思いました。 ■縄文土器や石器を触つてみて意外にしつかりしていてびっくりしました。矢じりが思ったより痛くて動物に刺されたと思うと、とても怖いです。土器を触つたときにでこぼこしている物やなめらか物があつて、土器や石器はいろいろなものがあることわきました。縄文時代の人はどのようにして暮らしていたのか、もっと知りたいです。

**【令和5年度制作の教材】**三八地域向けに40セット、西北地域向けに20セットの計60セット<sup>6)</sup>を制作した。教材とした遺物を抽出した遺跡は昨年と同様、活用地域と同一<sup>7)</sup>(地元の出土品)とし、指導者(授業を行う教員を想定)が安心して活用できるように、取扱説明書も添付した(写真2)。市町村教育委員会への配布は、令和6年度に行う予定である。



教材用土器破片の確認作業



教材用石器の配置作業



写真2 教材制作の状況と取扱説明書の内容

4)学校教育以外でも、行政が行う生涯学習イベントや、民間による社会貢献的催事などでも、幅広い活用が可能である。

5)1クラスの児童・生徒の全員が直接触れる点数+教師用の大型破片数点。

6)制作数の比率は、令和5年段階で公表されている三八地域と西北地域の児童・生徒数および学級数を参考に算出した。

7)当センター刊行の発掘調査報告書に掲載されなかったものの中から高強度・高耐久などを抽出した。

#### 4 【取組2】魅力再発見・情報発信

##### (1) 再発見フェアの開催

①出土品展示会、②体験学習会、③講演会・シンポジウムの3要素で構成されるフェアであり、多くの世代が「縄文」を①見て、②触って、③考えることのできる内容とした。

今年度は三八地域と西北地域で開催した。両フェアとも400人以上の来場者があった。

## ① 出土品展示会

地元からの出土品を数多く展示し、調査写真パネル等も多くした。露出展示<sup>8)</sup>を基本とし、「ガラス越しの存在」だった縄文遺物を「ごく間近に」見ることができるようにし、写真撮影も自由にするなど制限を極力なくすることで、「とにかく楽しい展示会」<sup>8)</sup>、「博物館では味わえない感動」を目指した。

展示室の数箇所には、「あおもり縄文カード」（後述）を詰め込んだ深鉢形土器（実物）を配置し、展示品を観覧しながらカード入手するという配布方法を採った（後述する体験学習会への参加者にも配布した）。

8)破損・盗難防止策として、展示品の前面にベルトパーティションを設置し、小型品についてはさらに標本箱や透明ケース等に収めた。監視は主に委託業者が行い、当センターの専門職は（雑談を交えながら）緩い雰囲気の中で展示解説を行った。

## 出土品の展示

対象地域の全市町村の出土品を対象とすることから、①当センターの所蔵品、②所蔵教育委員会からの借用品<sup>9)</sup>、③所蔵教育委員会による自主出品<sup>9)</sup>で構成した。当センター所蔵品の展示にあたっては、土器の石膏は経年劣化が著しく進み、再修復を必要とするものが多く、固化したテープ類の糊の除去にもかなりの苦労を要した。

9)当センターが過去に譲与した資料や、市町村が所蔵する優品などについては、（当センターに所蔵が無いため）各市町村に自主出品を促したが、埋蔵文化財を取り扱う専門職が不在もしくは専門職が自主出品への対応が不可能な場合は、当センターが借用するかたちで展示した。

さんばち会場は大空間を使用した展示が可能だったことから、展示遺物の総数は1,150点にのぼった。八戸市南郷歴史民俗資料館、田子町教育委員会からは所蔵資料を借用し、共催の三戸町をはじめ、五戸町、南部町、階上町、新郷村の各教育委員会からは多くの出土品を自主出品していただいた（写真4-1）。

せいほく会場の遺物展示数は651点を数える。鰺ヶ沢町、深浦町、板柳町、鶴田町の各教育委員会から所蔵資料を借用したほか、共催の五所川原市をはじめとする、つがる市、中泊町の各教育委員会からは多くの資料を自主出品していただいた。（写真4-5）。

## 展示構成

地域を通史的に観覧する流れではなく、「自分の市町村の出土品」をまとめて観ることができるよう、自治体ごとのテーブルに遺跡毎の出土品を並べ、「地元」感の演出に配慮した。

多くの観覧者は展示品（考古学的資料）にそれほど詳しくないと想定し、昨年と同様、遺跡ごとの特徴がわかりづらい石器類は少なめに、土器や土・石製品類を数多く展示した。ベルトパーティションを活用しつつ、「縄文」を身近に感じてもらえるよう、基本的に展示は露出とした（写真4-3）。小型品については標本箱に入れ、高さのある出土品は市販のプラスチックケース等を適宜使用した。

さんばち会場では、7市町村から1点ずつ“目玉出土品”を選定し、四方から観覧できるように、ア



写真3 ポスターとリーフレット  
(上：フェア in さんばち・下：フェア in せいほく)

クリルボックスを用いた自作の展示台で展示したほか(写真4-1)、円卓や半円卓を設けることで展示が単調にならないよう配慮した(写真4-2)。また、せいほく会場において披露された中泊町深郷田遺跡の石鏸の面的な大量展示は、多くの来場者の目をひいた。

### 展示パネル

パネルは自前で作成した。省力化と省資源のため、スチレンボードへの貼付やラミネート加工などを行わず、写真画像にキャプションを添えたデータを厚手上質紙にプリントし、展示ボードに掲示した。画像データは、所蔵するデジタルデータと、データが無い場合はポジフィルム及び報告書をスキャンしてデジタル化したものを使用した。

さんばち会場の展示パネル数は199枚、せいほく会場の展示パネル数は152枚である。A3版を基本とし、A2版も一部に組み込むことでアクセントをつけた。出土品の展示が遺跡ごとであるため、パネルの位置もそれに沿わせた。遺跡の遠景・全景写真の多用により、どの辺りの遺跡かを知つてもらうよう努めたほか、作業風景や遺物出土状況の写真も積極的に加え、発掘現場の臨場感を伝えることも意図した。展示遺物数が多い遺跡では、遺跡や遺物の特徴などを解説するパネルも作成した(写真4-3)ほか、大判印刷の縄文遺跡地図(写真4-7)は、自宅からの距離感も把握でき、今年度も好評だった。

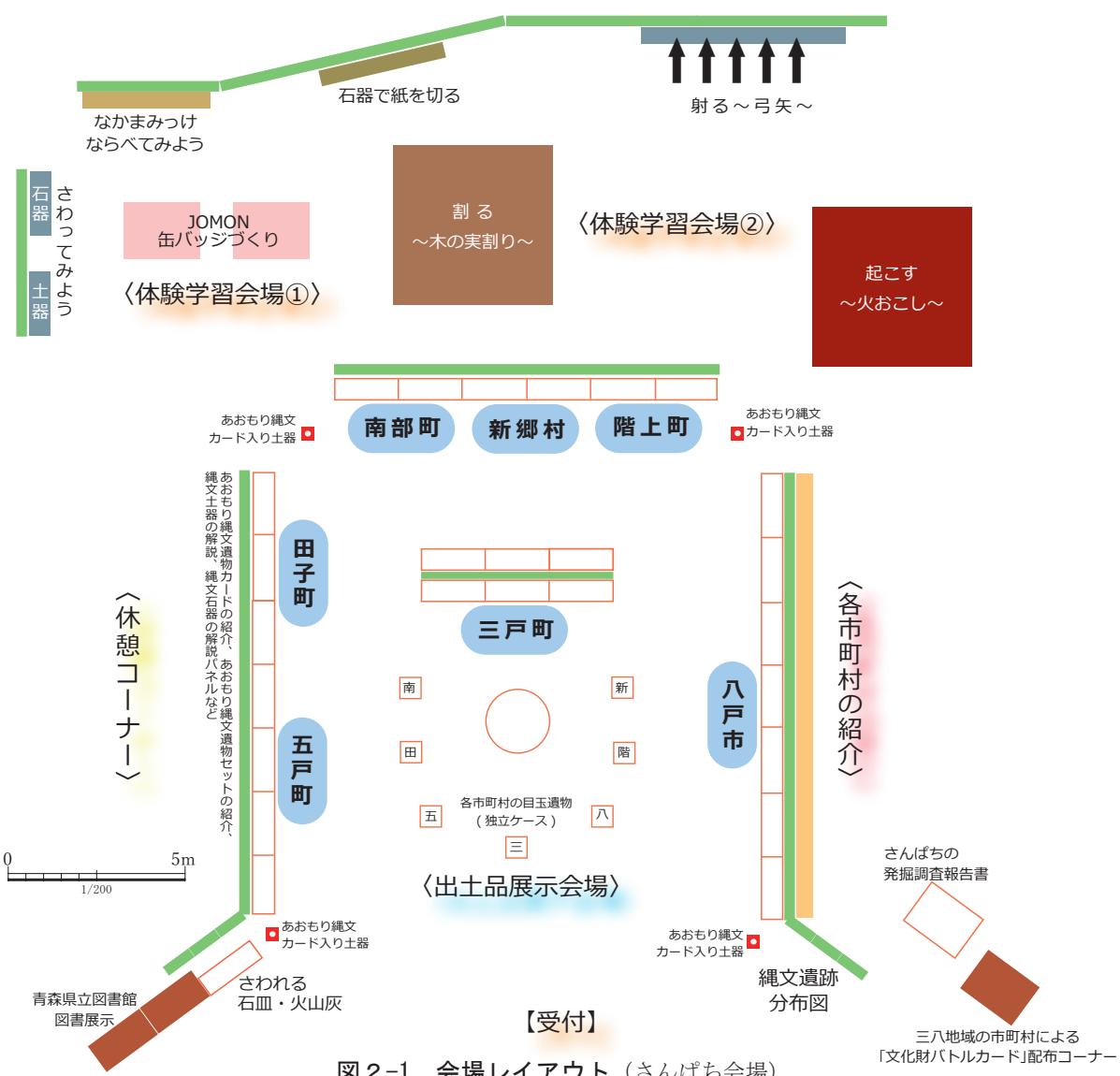


図2-1 会場レイアウト(さんばち会場)

## その他

展示遺物のキャプションは「名称・出土地・時期」を記しただけのもの（情報が少なく、無機質）であるため、考古学に興味がない人にも親しんでもらえるようにポップを活用するとともに、出土品の脇に遺跡地図を沿わせて、出土地点を分かりやすくした（せいほく会場のみ）。

昨年同様、展示会場内では縄文土器内からカードを引く形で「縄文カード」を配布した（写真4-8）。

体験学習のハンズオンとは別に、出土品展示会場内に“さわれる”コーナーを設け、石皿等を展示した（写真4-4）。使用方法がキャプションのみでは理解できない資料を感覚的に分かってもらう上で有効である。特に、せいほく会場のように、体験会場が離れた場所にある場合、展示会場内に“さわれる”遺物があることで、観覧者の“ふれてみたい”という欲求にその場で応えることができる。

昨年に引き続き、会場内には各遺跡の発掘調査報告書を展示したが、せいほく会場では、通路を利用して「地元の遺跡報告書閲覧コーナー」を設置した（写真4-6）。来場者は専門用語が分からなくても、多量の報告書の存在と身近な遺跡と多様な遺構・遺物の報告に驚きつつ、深い興味を示していた。

なお、さんばち会場、せいほく会場とも青森県立図書館による蔵書展示（フェアに関連する縄文時代の書籍や遺跡の発掘調査報告書、市町村史）を行い、希望者はその場で貸出カードを発行してもらい、図書の貸出を受けることができるようにした。

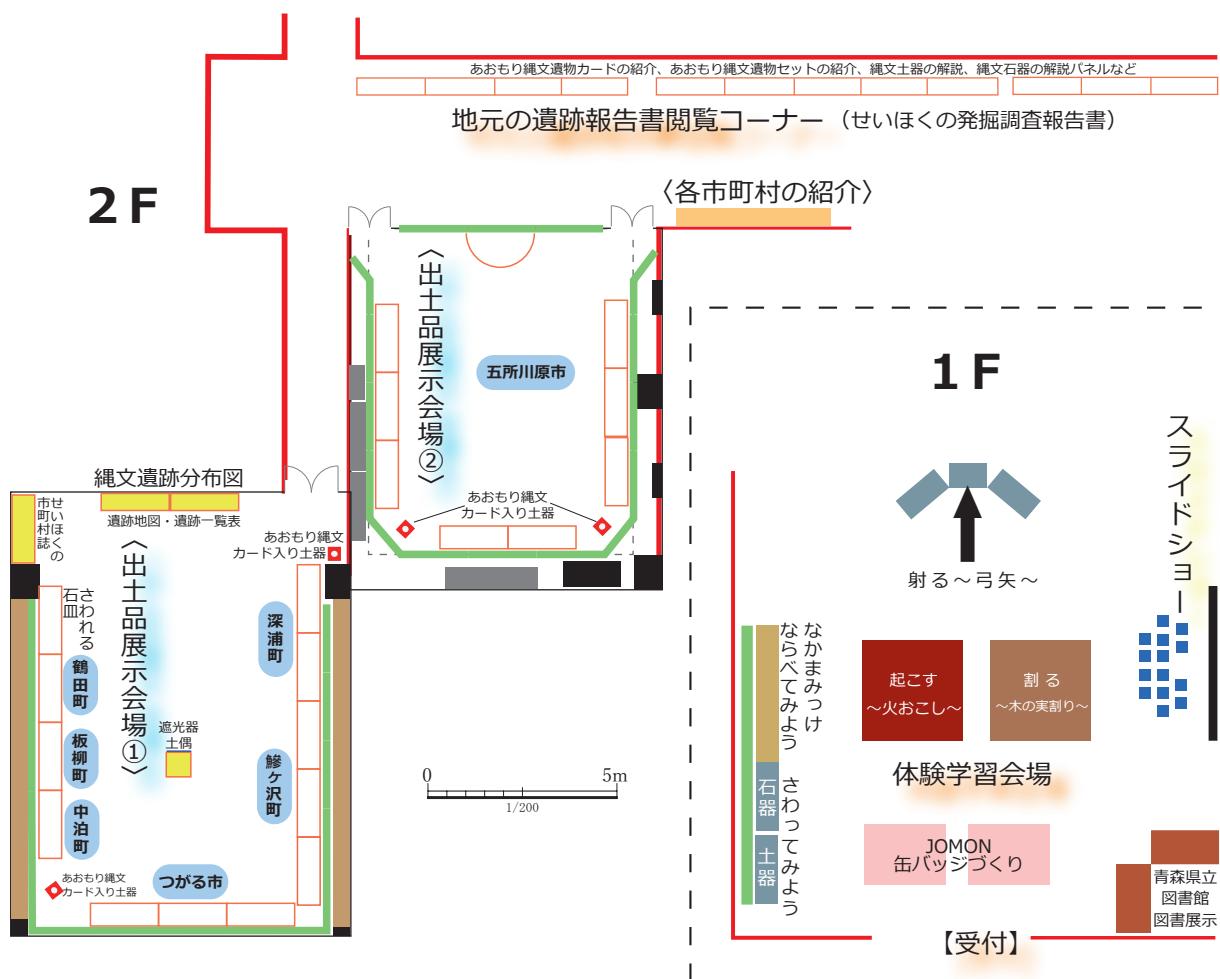


図2-2 会場レイアウト（せいほく会場）



1. 広い体育館をつかった大規模な展示

2. 単調な展示にならない工夫  
(コンテナ+コンパネ+テーブルクロス)

3. 今年度も露出を基本とした展示



4. 展示会場内に設けた“さわれる”コーナー



5. 多くの「自主展示」による幅広さと奥深さ



6. 通路を利用した「地元の発掘調査報告書コーナー」



7. 縄文遺跡地図の拡大掲示と遺跡地図(書籍)閲覧



8. 今年度も人気だった「あおもり縄文カード」

**写真4 出土品展示会の状況**  
(1～4: フェア in さんばち・5～8: フェア in せいほく)

表4 フェアの概要 (令和5年度)

対象地域	三八地域 (第1回フェア)	西北地域 (第2回フェア)
開催期間	16日(土) 10:00~17:00 17日(日) 9:00~17:00 18日(月・祝) 9:00~16:00	11日(土) 10:00~17:00 12日(日) 9:00~17:00
フェア名称	「地元の縄文」再発見フェア in さんばち	「地元の縄文」再発見フェア in せいほく
共 催	三戸町教育委員会	五所川原市教育委員会
開催施設名	三戸町民体育館(出土品展示会・体験学習会) 三戸町中央公民館(講演会・シンポジウム)	五所川原市中央公民館
天 候	16日:晴れ 17日:晴れ 18日:晴れ	11日:曇りのち雨 12日:雨
観覧者数	488名 (16日:108名 17日:208名 18日:172名)	413名 (11日:184名 12日:229名)
印刷物	ポスター(B2判)・リーフレット(A4判)・レジュメ(A4判)	
広 報	「教育広報あおもりけん」 青森県庁広報広聴課Facebook	青森県庁HPのアイキャッチ
報 道	エフエム青森(8/30, 9/15:「あおもり・ふあん」) 東奥日報(9/15:地域面) 東奥日報(9/17:社会面) デーリー東北(9/17:地域面/テレビ番組紹介面) R A B 青森放送(9/17:「大好き、青森県。」)	エフエム青森(10/26, 11/9:「あおもり・ふあん」) FMごしょがわら(10/27~11/11:「市役所かわら版」) 陸奥新報(11/12:第2面)
①出土品展示会	期間	開催期間と同
	展示対象市町村	八戸市・三戸町・五戸町・田子町 南部町・階上町・新郷村
	展示遺物数	1,150点
	展示パネル数	199点
②体験学習会	展示遺跡	【八戸市】櫛引・鶴平(1)・鶴平(2)・鶴窪・潟野・和野前山・壳場・笛ノ沢(3)・糠塚小沢・新田・中居林・荒屋敷久保(1)・笛子(2)・葦窪・長久保(2)・牛ヶ沢(3)・根岸山添・弥次郎窪・上明戸・櫛館・千石屋敷・八幡・沢堀込・長者森・馬場瀬・畠内・田代・松石橋・泥障作孤・田ノ上 【三戸町】泉山・沖中・中野(2)・寺ノ沢・峰ヶ崎 【五戸町】西張平・治郎左エ門長根・中ノ沢西張・古街道長根・上蛇沢(2) 【田子町】野面平・石亀・館越・宮沢頭・遠瀬・閑・衣更・原・獅々内 【南部町】館・虚空蔵・西張(2)・苦米地館野・苦米地西山・大久保平 【階上町】横沢山(1)・藤沢(2)・野場(5)・滝端・寺下 【新郷村】獅子神・咽烟・荻沢・田茂代
	主な展示品	【八戸市】泥障作孤森遺跡出土早期土偶・櫛引遺跡出土多縄文土器(レプリカ)・笛ノ沢(3)遺跡出土円筒上層式土器【三戸町】沖中遺跡出土赤ちゃん土偶・泉山遺跡出土亀ヶ岡式土器・砂鉄塊 【五戸町】上蛇沢(2)遺跡出土彫刻のある石冠・西張平遺跡出土円筒下層式土器 【田子町】野面平遺跡出土腕を組む土偶・石亀遺跡出土日本最大の岩偶 【南部町】大久保平遺跡出土押型文土器・苦米地館野遺跡出土块状耳飾 【階上町】寺下遺跡出土鹿角製腰飾・野場(5)遺跡出土キノコ形土器製品 【新郷村】咽烟遺跡出土鉢形土器・獅子神遺跡出土十腰内V式土器
	その他	来場者に「あおもり縄文カード」を配布 入手可能枚数6枚(22種: No.147~168)
③講演会・シンポジウム	時間	開催期間と同
	さわる	ならべてみよう なかまみつけ さわってみよう
	つくる	JOMON缶バッジ作り
	たいけんする	射る(弓矢) 起こす(火おこし) 割る(木の実割り) 切る(紙を切る:さんのへ会場のみ)
④ワークショップ	時間	17日(日:13:00~16:30)
	定員	100名(参加者76名)
	基調講演	「さんばちの縄文時代」 野田 尚志(三戸町教育委員会)
	事例報告	「八戸市と階上町の縄文時代」 市川 健夫(八戸市博物館) 「新郷村と五戸町の縄文時代」 村本 恵一郎(五戸町教育委員会) 「田子町・三戸町・南部町の縄文時代」 岡本 洋(青森県埋蔵文化財調査センター)
⑤展示会	シンポジウム	「再発見“さんばちの縄文” —沿岸と内陸の縄文文化を語る—」 パネリスト 野田尚志・市川健夫・村本恵一郎・岡本洋 コーディネーター 木村高(青森県埋蔵文化財調査センター)
		「再発見“せいほくの縄文” —平野と沿岸の縄文文化を語る—」 パネリスト 齋藤淳・江戸邦之・小林和樹・岡本洋 コーディネーター 木村高(青森県埋蔵文化財調査センター)

### 来場者アンケート(図3)

【フェアinさんばち】展示は「非常に満足」、「満足」がほとんどであった。来場者は、1日目が108名、2日目が208名、3日目が172名、合計488名であった。フェア期間中に地元紙(東奥日報・デーリー東北)やテレビ(R A B放送「大好き、青森県。」)に本事業の紹介とフェアinさんばちに関する記事が掲載、放映されたこともあり、多くの方にご来場いただいた。

アンケートの記載には「地域のものがたくさんあってよかったです」「滅多に見ることができない三八

地域の出土品を見ることができた」「展示数が多く、内容がよかったです」「素晴らしい出土品の多さと県内の遺跡の技術の高さを感じられた」「きれいなものやかわいいものなどがたくさんあり、意外と身近にあると知って驚いた」など、本フェアの趣旨を体現するかのようなコメントが見られた。今回展示した出土品の多くは収蔵庫等に保管され、日の目を浴びることが少ないが、上述のコメントは、地域における埋蔵文化財活用への需要の高さをよく表している。

また、「近い距離で見ることができた。東京の博物館などは人混みにより最前列で見るのが大変で、今回の展示は贅沢に感じた。」との声もあった。博物館の展示とは違う形で、地元の縄文をゆっくり満喫できたのではないかと思われる。

【フェアinせいほく】展示は「非常に満足」、「満足」がほとんどであった。来場者は、1日目184名、2日目が229名、合計413名であった。フェア期間中に地元紙(陸奥新報)に本事業の開催に関する記事が掲載されたことも重なり、多くの方にご来場いただいた。

アンケートには、「地元の遺跡や出土品などあまり知らないことに気づきました」「西北地域の縄文土器を一か所で見れたことは本当に素晴らしいよかったです」「実物がすぐ目の前で見れてよかったです」「遺跡発掘物(出土品)がたくさんあり、縄文が身近に感じられ勉強になった」などの記載がみられ、西北地域の出土品が一堂に会したフェアに対する評価を得た。一方で、「貴重なものだと思いますが、不十分な知識なのでもったいないくらいです。知識があればもっと楽しめた。」とのコメントがあり、身近にある「地元の縄文」の価値や魅力を今以上に県民に伝えることが課題となった。県民に伝えるという意味では、今後も継続して埋蔵文化財の価値や魅力を伝えていく必要があると感じた。

### ② 体験学習会(写真5)

「さわる」「つくる」「たいけんする」の3種の体験メニューを通して、地元の土器を観察し、色や形、文様等に様々なものがあることを知り、狩猟や火おこし等の当時の生活の一部を体感し、親しんでいたことで、縄文への理解が子どもから大人まで深まるように心掛けた。

#### さわる

【ならべてみよう】ヒントを手がかりに、5点の土器片を年代の古い順に並べ、その順番を解答用紙に記入するクイズ形式のものである。使用する土器は、できるだけ開催地域の遺跡から出土したものを使用した。解答用紙には地元の遺跡から出土した土偶の画像を組み込んだり、土器の出土遺跡を明記

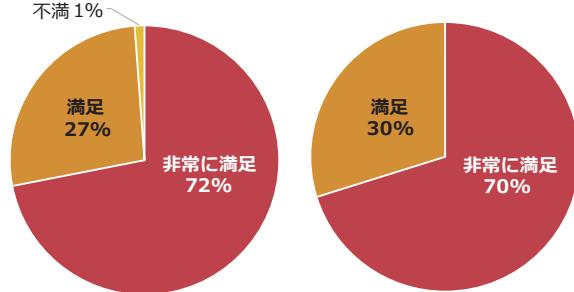


図3 出土品展示会のアンケート結果  
(左:フェア in さんばち・右:フェア in せいほく)

するなど、隅々に「地元感」を出す工夫をした。

**【なかまみつけ】**箱の中に収められた12点の土器片の中から縄文土器を見つけ出し、その番号を解答用紙に記入するクイズ形式のものである(写真5-5)。縄文土器を1点でも多く見つけられるように、12点のうち10点は縄文土器(無文の縄文土器を含む)とし、2点を平安時代の土師器とした。土器片は開催地域の遺跡から出土したものを使用した。



1. 射る ~弓矢~



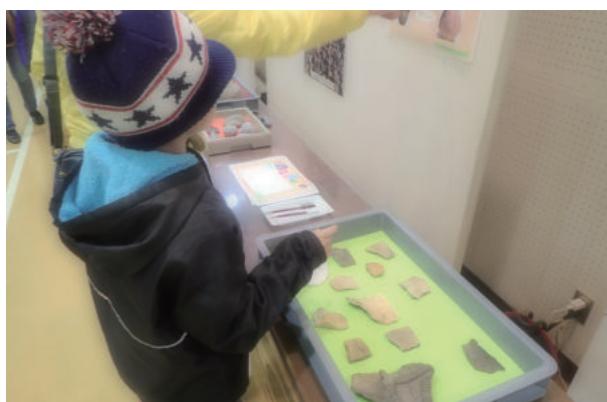
2. 起こす ~火おこし~



3. JOMON缶バッジ作り



4. 割る ~木の実割り~



5. なかまみつけ



6. さわってみよう

**写真5 体験学習会の状況**  
(1～3：フェア in さんばち・4～6：フェア in せいほく)

**【さわってみよう】**地元の遺跡出土の本物の土器や石器等に触る体験である(写真5-6)。復元した土器7点、石鏸、石槍、石錘、スクレイパー、石斧、石皿等の石器を用意し、土器や石器それぞれの簡単な解説パネルも掲示した。また、せいほく会場では、地元ならではの七里長浜採取の黒曜石が好評であった。見るだけでなく、実物を触ることで、縄文へのより深い理解が得られたものと考えられる。

### つくる

**【JOMON缶バッジ作り】**コピー用紙と色鉛筆を使って採ったカラー拓本を缶バッジにするもので、昨年度からの人気メニューである(写真5-3)。使用した土器片は開催地域内の遺跡から出土したものに基づいた。様々な土器片の中から、どの土器片にするか、どの色を塗るかで悩んだりと、和気藹々の雰囲気であった。

### たいけんする<sup>10)</sup>

**【射る～弓矢～】**市販品ではない、オリジナルの竹製弓矢を使い、的をめがけて矢を射る体験であるが、最初は的に当てるのがやや難しくても、コツをつかむと子どもから大人まで多くの方が矢を飛ばすことができた。夢中になって、何度も飛ばす方が多かった(写真5-1)。

**【起こす～火おこし～】**縄文時代には存在しない「舞錐法」の火おこし器(市販品)であるが、多くの方が満足していた(写真5-2)。会場の都合上、火を起こす寸前までの体験であるが、子どもから大人まで楽しんでいた。コツをつかむまでには時間がかかるため、火を起こすことの難しさを実感していた。

**【割る～木の実割り～】**石でトチやクルミを割る体験である(写真5-4)。木の実によっては固くて割りにくいものもあったが、木の実を割ること自体が新鮮だったようで、何度も挑戦する方が多くいた。

**【切る～紙を切る～(さんのへ会場のみ)】**製作した石器を使って紙(コピー用紙)を切る体験である。カッターのような金属器に慣れた参加者にとって、石で紙を切る体験は新鮮であったようである。

10) 「たいけんする」の4種のメニューは、フェアinさんのへにおいて、三戸町教育委員会の野田尚志氏と諏訪光氏からのご指導により実現できたものである。初体験の参加者が多く、子どもから大人まで、夢中になって楽しむ姿を幾度となく見ることができた。かなり好評であったことから、フェアinせいほくでも実施した。

### 来場者アンケート(図4)

体験学習会は、「とても簡単、わかりやすい」、「簡単、ちょうどよい」が9割、「やや難しい」が1割を占めている。全般に、JOMON缶バッジ作り、弓矢、火おこしはかなりの好評価であった。

アンケートの記載には、「本物の土器や石器を触ることができ、説明もあってよかったです。」「これから土器を見るのが楽しくなった。」「いろいろな説明があり楽しく学べた。」等、本物の土器や石器に触れることができたことや、掲示による説明とスタッフによる説明があったことで、「縄文」を楽しく学ぶことができたと考えられる。また、「縄文時代のことを肌で感じられてとても楽しかった」「やつたことがなかったので楽しかった」「貴重な体験ができてよかったです」等、「縄文」をより身近に感じることができたようである。一方、「弓矢で的に当てるのが難しかった」「火おこしがやや難しかった」等、一部に難しいと感じる参加者もみられた。

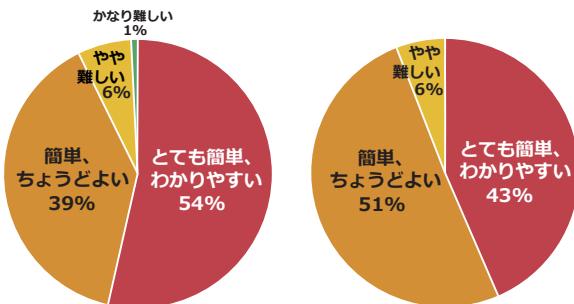


図4 体験学習会のアンケート結果  
(左: フェア in さんぽち・右: フェア in せいほく)

### ③ 講演会・シンポジウム(写真7)

地元の考古学研究者による講演と当センター職員等による地元の縄文遺跡の事例報告後、シンポジウムでは「地元の縄文」に特化した考古学的議論と「地元の縄文」に関する今後の活用案を提示した。3時間30分という短い時間ではあるが、平易でありつつも情報量の多い内容を目指した。また、県民が気楽に読むことのできるレジュメ(写真6)を作成し、会場で無料配布した(フェア終了後はホームページで公開)。



写真6 レジュメ  
(左: フェア in さんばち・右: フェア in せいほく)

#### さんばち会場

野田尚志氏(三戸町教育委員会)による講演、市川健夫氏(八戸市博物館)と村本恵一郎氏(五戸町教育委員会)、当センター職員(岡本洋)による地元の縄文遺跡の事例報告、シンポジウムでは、当センター職員(木村高)をコーディネーターとして、野田・市川・村本・岡本の4名のパネリストが議論し、最後の10分間は、パネリスト考案の縄文関連グッズ案などの紹介で締めくくった。聴講者は76名。

**【講演会】**野田氏による講演「さんばちの縄文時代」は、縄文時代概説→さんばちの縄文遺跡の分布変化→(豊富な)さんばちの標式土器→十和田火山の影響→縄文人の暮らし方→各市町村の主な出土品→文化財保護と活用の必要性、という数多くの事項を、テレビ番組のように効率的にまとめることで、漠然としていた縄文時代、考古学、自然環境、埋蔵文化財の大切さ等が、多くの聴講者にスムーズに理解された。

**【事例報告と質問への回答】**三八地域を市町村で区分し、それぞれの市町村がもつ特長と各パネリストが得意とする研究分野を最大限に生かしながら、三八地域がもつ縄文文化の多様性と、三八地域に生きた縄文人が残したドラマと彼らの世界観を具体的に描き出した。事例報告の後は、事前配布していた質問票に対してパネリストとコーディネーターが回答した。

**【シンポジウム】**十和田湖の噴火について→環境の変化(植生の変化)について→豊富な植物資源と豊富な魚介類について→土偶の面白さについて→縄文関連グッズ案の紹介、という流れで議論した。

#### せいほく会場

齋藤淳氏(中泊町博物館)による講演、江戸邦之氏(五所川原市教育委員会)、小林和樹氏(つがる市教育委員会)、当センター職員(岡本洋)による地元の縄文遺跡の事例報告、シンポジウムでは、前回のフェアと同様に、木村がコーディネーター、齋藤・江戸・小林・岡本がパネリストを務め、最後の10分間は、パネリスト考案の縄文関連グッズ案などを紹介した。聴講者は75名。

**【講演会】**齋藤氏による講演「せいほくの縄文時代」は、せいほくにおける考古学史→縄文時代遺跡の分布推移→古十三湖と遺跡との関係→岩木山と遺跡との関係→ムラのつくり・くらし→せいほくを中心とした南北交流→縄文時代以後のせいほく、という流れで進み、地域住民にあまり知られていなかつた過去の研究者たちを讃えつつ、最新の情報を駆使した集落像を経時に描き出すことで、地元における縄文時代の奥深さと研究の重要性、足下に眠る「意外性」が多くの聴講者に理解された。

**【事例報告と質問への回答】**西北地域を北部(津軽平野1・2)と南部(西海岸)に区分し、古十三湖、貝塚、泥炭層、墓、亀ヶ岡式土器…と、多くの属性に触れながら、多様な自然環境から生み出された個性的な文化要素を浮き彫りにするかたちとなった。事例報告の終了後は、これまでと同様に、事前配布していた質問票に、パネリストとコーディネーターが回答した。

**【シンポジウム】**古十三湖について→遺跡分布の変遷について→泥炭層について→十和田火山噴火後のラハールと津軽平野について→食べ物(シジミなど)について→海棲哺乳類について→土偶の面白さについて→縄文関連グッズ案の紹介、といった内容で議論した。縄文関連グッズについては、これまで以上にイラストに拘り、内容の提示方法にも工夫を加えた。



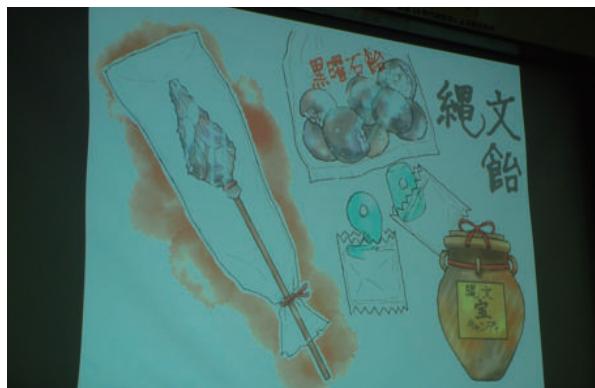
1. シンポジウムの状況(堅穴建物跡の増減)



2. 縄文関連グッズ案の紹介(土偶スマホスタンド)



3. シンポジウムの状況(泥炭層)



4. 縄文関連グッズ案の紹介(縄文飴: 石鏸飴と勾玉飴)

写真7 講演会・シンポジウムの状況  
(1～2: フェア in さんばち・3～4: フェア in せいほく)

#### 来場者アンケート(図5)

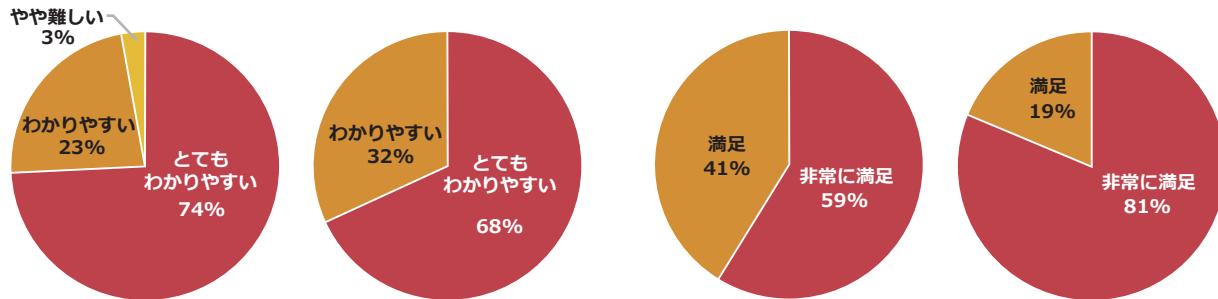
**【フェアinさんばち】**講演会・事例報告については「とてもわかりやすい」が74%、「わかりやすい」が23%で合計97%と大半を占め、「やや難しい」が6%あるが、概ね肯定的な評価を得た。一般県民向けに内容を構成したことが良かったと考えられる。

アンケートの声として、「講演の際にさまざまな事例を交えてくれて良かった」「各市町村の遺跡の特徴がよくわかった」といった評価とともに、「時間が足りなかつた」との意見も寄せられた。

シンポジウムについては、「非常に満足」が59%、「満足」が41%で合計100%である。過去の一般向けの講演会等よりもさらに親しみやすい内容・構成を意識したことが良かったと考えられる。また、「内容のゆるさがいい」「一つ一つ遺跡の内容をわかりやすくまとめ、短時間である程度のことわかった」「質問に答えていただいてありがとうございます」などの声があった。

**【フェアinせいほく】**講演会・事例報告については「とてもわかりやすい」が68%、「わかりやすい」が32%で合計100%と好評価であった。「講演者の熱が感じられ、関心深く楽しく聞かせていただいた」「初心者でも楽しく分かりやすかった」「説明がわかりやすくて初めて知ったこともあった」と一般県民へわかりやすく内容を伝えることができたようである。

シンポジウムについては、「非常に満足」が81%、「満足」が19%で合計100%である。さんばち会場同様、親しみやすい内容・構成を目指したことが良かったと考えられる。また、「古十三湖をテーマにしたのはよかったです」「古十三湖についてシンポジウムで知ることができてよかったです」「縄文をテーマにしたグッズがとてもよかったです」などの声があり、参加者が知りたいと思ったこととテーマがマッチし、満足度が高かったものと考えられる。



## (2) 情報の発信

### ①あおもり縄文カードの作成(写真8・9、表5)

県民に出土品の魅力と価値を伝え、「縄文」に関心を持ち、親しんでもらうとともに、自分の住む地域に存在していた出土品の素晴らしさや面白さに気づいていただくために制作した(写真8)。

昨年度のカードが好評だったため、今年度もより多くの方に知っていただこうと、昨年同様のスタイル(出土品:40市町村全地域対象、表面:遺物写真、裏面:小さな写真+平易な解説文+QRコード、厚紙に印刷、両面PP加工)を踏襲しつつ、今年度は、「きれいなもの」「面白いもの」という範疇から距離を置き、①各地域、②各時期、③各



写真8 あおもり縄文カード  
(上:表面・下:裏面)

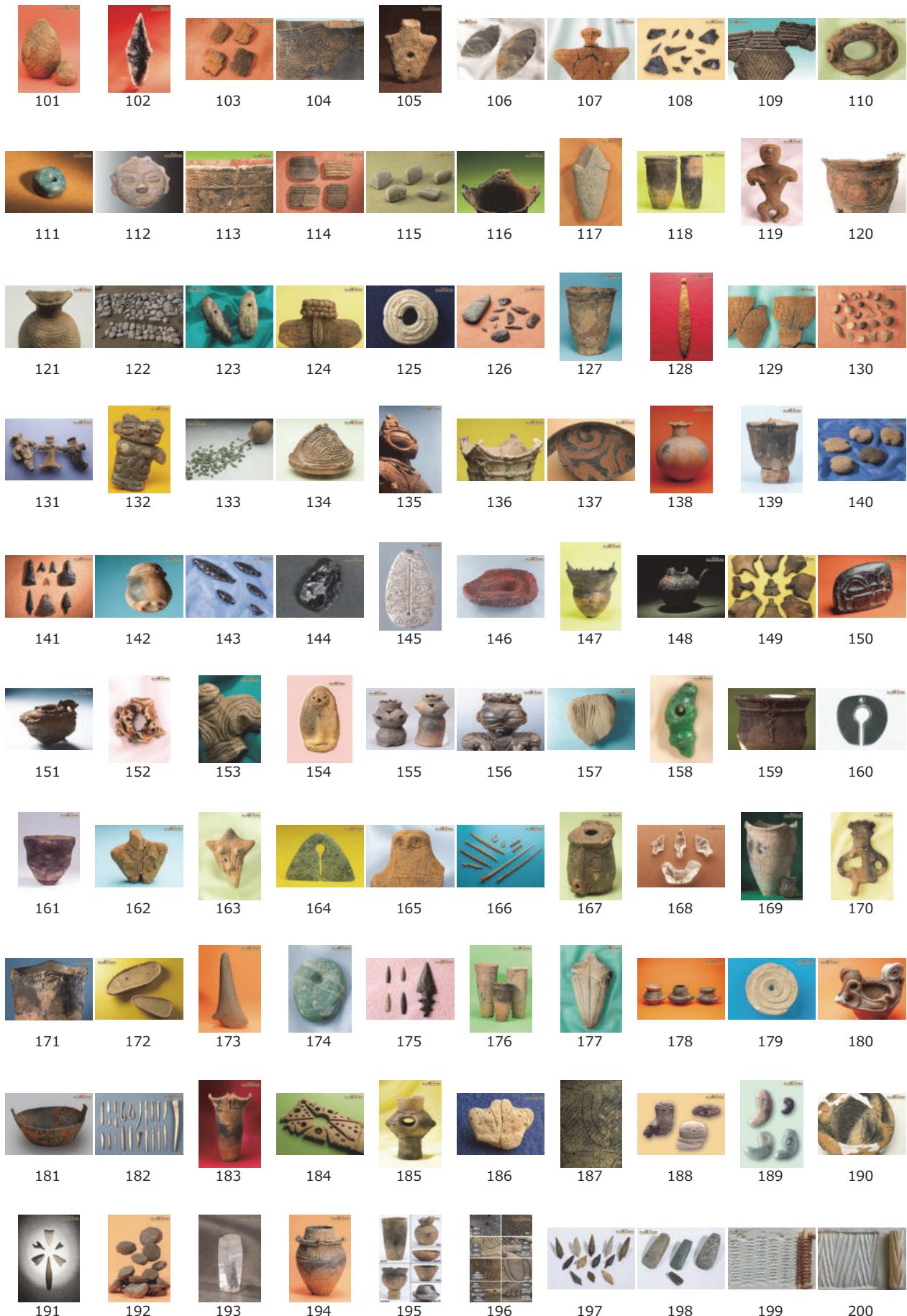


写真9 あおもり縄文カード（令和5年度制作版：No. 101～200）

表5 カードの内容及び配布先一覧(令和5年度制作)

市町村	カード№	内 容	配 布 施 設 名	内 容	配 布 施 設 名
佐井村	No.101	糠森遺跡出土 簡形土器品	佐井村海浜ミュージアム	治郎左エ門長良遺跡出土 土器のいろいろな突起	このへ郷土館
	No.102	八幡堂遺跡出土 石槍		No.149 上姪沢(2)遺跡出土 影刻のある石冠	五戸町図書館
大間町	No.103 小奥戸(1)遺跡出土 土器片 鐘形土器	北通り総合文化センター(ワイング)		No.150 上姪沢(2)遺跡出土 動物がいた土器	このへ郷土館
	No.104 小奥戸(1)遺跡出土 深鉢形土器			No.151 古街道長良遺跡出土 土器製造工具	田子町
風間浦村	No.105 泉ノ黒遺跡出土 土偶	風間浦村役場		No.152 野面平遺跡出土 岩偶	Takko Center みろく館
	No.106 泉ノ黒遺跡出土 両面加工石器			No.153 野面平遺跡出土 あちやん土偶	アツブドーム
	No.107 酔農(3)遺跡出土 土偶	むつ来さまい館		No.154 神中遺跡出土 あちやん土偶	三戸町立歴史民俗資料館
	No.108 大湊近川遺跡出土 いろいろな石器	北洋館		No.155 三戸町内遺跡出土 葦形土器	三戸町中央公民館
むつ市	No.109 二枚橋(1)遺跡出土 神型文土器	むつ市科学技術館		No.156 八日町遺跡出土 遠光器土偶	三戸町立図書館
	No.110 鮫越遺跡出土 糜状土器	道の駅わきのさわ		No.157 泉山遺跡出土 玉と玉瓦石	三戸町立名川中学校図書室1階
	No.111 能ヶ平(1)遺跡出土 平玉	むつ市川内公民館		No.158 泉山遺跡出土 沢築作孤森遺跡出土 岩偶	八戸市博物館
	No.112 二枚橋(2)遺跡出土 土面	奥薬研修景公園レストハウス		No.159 苗米地窟野遺跡出土 深鉢形土器	八戸市南郷歴史民俗資料館
東通村	No.113 石持屋遺跡出土 深鉢形土器	トントウビレッジ		No.160 苗米地窟野遺跡出土 独状耳折	道の駅さとうきび
	No.114 釜ノ平(2)遺跡出土 土器片 鐘形土器	野牛川レストハウス		No.161 櫛引遺跡出土 多繩文土器	八戸市博物館
西目屋村	No.115 水上(1)遺跡出土 平玉	白神山地ビジャーセンター		No.162 泥濘作孤森遺跡出土 土偶	種差海岸イノカヌメショジョンセンターハウス
	No.116 水上(2)遺跡出土 土面	西目屋村中央公民館(平和会館)		No.163 泥濘作孤森遺跡出土 岩偶	八戸市博物館
	No.117 沢部(2)遺跡出土 岩偶	岩木川ダム統合管理事務所		No.164 烟内遺跡出土 珠狀耳飾	八戸市博物館
弘前市	No.118 沢部(2)遺跡出土 深鉢形土器	日戸戸谷家住宅		No.165 笹ノ沢(3)遺跡出土 板状土偶	八戸市博物館
	No.119 糜師遺跡出土 土偶	瑞楽園		No.166 寺下遺跡出土 いろいろな骨角器	道の駅はしかみ
藤崎町	No.120 高倉遺跡出土 深鉢形土器	裾野地区体育文化交流センター		No.167 瓢端遺跡付近から出土 瓶形土器	ハートフルプラザ・はしかみ
田舎館村	No.121 田舎館村内遺跡出土 壺形土器	常盤生涯学習文化センター		No.168 泥濘作孤森遺跡出土 水量製石器	階上町立民俗資料収集館
黒石市	No.122 一ノ渡遺跡出土 配石遺構	田舎館村生涯文化財センター		No.169 中ノ平遺跡出土 深鉢形土器	外ヶ浜町立山ふるさと資料館
	No.123 一ノ渡遺跡出土 ヒスイ製大珠	伝承工芸館		No.170 今津(1)遺跡出土 土偶	八戸市博物館
平川市	No.124 四戸橋遺跡出土 板状土偶	金平成園(遷成園)		No.171 山崎(1)遺跡出土 深鉢形土器	道の駅まいべつ
	No.125 小金森遺跡出土 簥状土器品	平川市郷土資料館		No.172 山田(2)遺跡出土 石皿	蓬田村
大鰐町	No.126 駒木沢(2)遺跡出土 いろいろな石器	太鰐町中央公民館		No.173 山田(2)遺跡出土 青竜石形石器	道の駅たまごもぎた
中泊町	No.127 深鄧田遺跡出土 深鉢形土器	中泊町博物館		No.174 富田館遺跡出土 ヒスイ製玉(未製品)	八甲田山雪中行軍遭難資料館
	No.128 小泊の沖合Kmの地点から水揚げ 尖頭器	道の駅こどまり		No.175 石江遺跡出土 異形石館など	青森県立美術館
	No.129 腸無(4)遺跡出土 尖底深鉢形土器	道の駅いかりかせき		No.176 鹿沼遺跡出土 深鉢形土器	おもじり北のまほろば歴史館
	No.130 妻の神(1)遺跡出土 土器品	平川市郷土資料館		No.177 猫沢遺跡出土 岩偶	青森市中世の館
五所川原市	No.131 鶴音林遺跡出土 土偶	五所川原市中央公民館		No.178 槇ノ木遺跡出土 砂口土器	平内町立歴史民俗資料館
	No.132 鶴音林遺跡出土 深鉢形土器	立候武多の館		No.179 槇ノ木遺跡出土 鹿角製櫛	夜越山森林公園(サボテン園・洋ラン園)
	No.133 五月女滝遺跡出土 玉の素材発見	五所川原市市浦歴史民俗資料館		No.180 上与太川遺跡出土 深鉢形土器	野辺町立歴史民俗資料館
	No.134 五月女滝遺跡出土 蓋形土器	つがる市森田歴史民俗資料館		No.181 向田(18)遺跡出土 漆塗木鉢	野辺町観光物産PRセンター
	No.135 亀ヶ岡遺跡出土 尖底深鉢形土器	つがる市木造亀ヶ岡考古資料室(掘文館)		No.182 東道ノ上(3)遺跡出土 いろいろな骨角器	日本中央の傳保存館
つがる市	No.136 亀ヶ岡遺跡出土 漆塗深鉢形土器	鰐ヶ岡ケ隔離(レハブ)		No.183 東道ノ上(3)遺跡出土 岩偶	東北町立民衆館
	No.137 亀ヶ岡遺跡出土 深鉢形土器	立候武多の館		No.184 ツツジ貝冢出土 土偶	二ツ森貝塚
	No.138 亀ヶ岡遺跡出土 岩偶	つがる市郷土展示資料館(カルコ)		No.185 箕輪(1)遺跡出土 異形台付土器	七戸町立鷹字記念美術館
	No.139 亀ヶ岡遺跡出土 深鉢形土器	つがる市「動物の鼻」		No.186 横井沼(1)遺跡出土 岩偶	青森県立三沢断空科学館
鰐ヶ沢町	No.140 李沢遺跡出土 石睡	日本海拠点館		No.187 猫又(2)遺跡出土 猫又が描かれた土器	三沢市歴史民俗資料館
	No.141 亀ヶ岡遺跡出土 いろいろな石器	種里光信公の館		No.188 明戸遺跡出土 円盤状石製品	十和田市称徳館
	No.142 津山遺跡出土 葦形土器	十二湖エコ・ミュージアムセンター(湖郷館)		No.189 富戸(2)遺跡出土 水晶垂飾品	六ヶ所村立郷土館
鶴田町	No.143 津山遺跡出土 黒曜石製振器	鶴田町歴史文化伝承館(旧水元小学校)		No.190 富戸(2)遺跡出土 葦形土器	六ヶ所村文化交流プラザ・スワニー
	No.144 土井(1)遺跡出土 岩偶	板柳町立郷土資料館		No.191 中野平遺跡出土 いろいろな石器	青森県埋蔵文化財調査センター
	No.145 土井(1)遺跡出土 赤い頸料がついた石皿	道の駅しんごう		No.192 余木遺跡出土 円盤状石製品	横浜町ふれあいセンター
新郷村	No.147 獅子神遺跡出土 深鉢形土器	新郷村山開発センター(新郷村営湯併設)		No.193 尾波(2)遺跡出土 水晶垂飾品	六ヶ所村立郷土館
	No.148 獅子神遺跡出土 注口土器	川代ものづくり学校		No.194 富戸(2)遺跡出土 葦形土器	青森県埋蔵文化財調査センター
	No.149 獅子神遺跡出土 岩偶			No.195 県内各地の遺跡から出土した鰐文土器の形	青森市立美術館
	No.150 獅子神遺跡出土 岩偶			No.196 県内各地の遺跡から出土した鰐文土器	おいらせ阿光坊古墳館
	No.151 獅子神遺跡出土 岩偶			No.197 県内各地の遺跡から出土した黒縞石斧	おいらせ阿光坊古墳館
	No.152 獅子神遺跡出土 岩偶			No.198 県内各地の遺跡から出土した鰐文土器	青森市立美術館
	No.153 獅子神遺跡出土 岩偶			No.199 文様の知識「その他の原体③」	その他
	No.154 獅子神遺跡出土 岩偶			No.200 文様の実施地域のものを若干多く設定している。令和5年度は三八地域と西北地域の種類を多くした。	

種類を組み合わせることで出土品の移り変わりや、他地域で見つかっている同時期の出土品との異同など、様々に興味を深めることができるよう工夫した。

裏面の解説文についても概ね前年度のスタイルを踏襲しつつ、今年度はより県民との距離を縮めるため、①コメントする人物を5人から8人に増員、②驚いた顔や笑った顔など表情を追加、③複数人で議論、人と土偶が会話する等の会話調の解説を追加、といった工夫を加えた。

配布は県内の道の駅、登録博物館・博物館類似施設、その他各地域の拠点的な公開施設等で9月中旬から無料配布した。9月及び11月に開催した「地元の縄文」再発見フェアでは、開催地域のカードを来場者にプレゼントした。

### 配布効果

昨年度と同様に、出土品が出土した地元での配布という基本方針を踏襲した。今年度も早い段階で在庫切れになる施設が相次いだ。

各施設からは、「感謝の手紙を何通ももらった」「障害者の方も多く来てくれた」「子どもから大人まで多くの年齢層が来てくれた」「県外からの問い合わせもすごかった」などの声があった。

県民からは、「草創期や早期など、古い出土品が魅力的」「○○の施設でも配布してほしい」「自分の休日が月曜日であるため、月曜休館の施設のカードを集めることが難しい」「カードの内容をもっと知りたいので、全カードの実物を配布施設に展示してほしい」などの要望が寄せられた。

なお、配布先一覧については、ホームページ上に公開し、配布施設や一般市民からの問い合わせについては随時対応している。

### 報 道

【新 聞】 東奥日報(10/9:社会面)・東奥日報(11/7:教育面)・読売新聞(11/7:地域面)

【テレビ】 R A B 青森放送(9/17:「大好き、青森県。」)

### ②ホームページ

インターネットを利用して、本事業の取り組みを紹介している。訪問数・訪問者数ともに増加傾向にあり、今年度は2月末の時点で、昨年の年間総数(HP訪問数27,403、訪問者数16,936)よりも4,000件以上も上回っている(表6・図7)。

昨年度は、「あおもり縄文カード」を自分の住む地域に存在した出土品の素晴らしさや面白さに気づいてもらうための誘引ツールとして位置づけ、ホームページ上では出土品を「地域ごとに見る」<sup>11)</sup>方向性を基本としたが、今年度は各地域の出土品を「種類ごとに見る」<sup>12)</sup>ことのできる一覧表(図6:土器、石器、土偶・岩偶、土製品・石製品、動植物素材の5種の編年表)を加えることで、出土品の素晴らしさや面白さに加え、青森県域に展開した縄文文化の充実度や逞しさのようなものに気づいてもらえるよう配慮した。来年度は、各出土品の出土地(遺跡)の場所が分かるページを加える予定である。

11) 「地域ごとに見る」下北地域のページ

([https://www.ao-maibun.jp/rediscover\\_jomon/season1/s1\\_06\\_simokita.html](https://www.ao-maibun.jp/rediscover_jomon/season1/s1_06_simokita.html))

12) 「種類ごとに見る」土器のページ

([https://www.ao-maibun.jp/rediscover\\_jomon/season2/01\\_doki.html](https://www.ao-maibun.jp/rediscover_jomon/season2/01_doki.html))

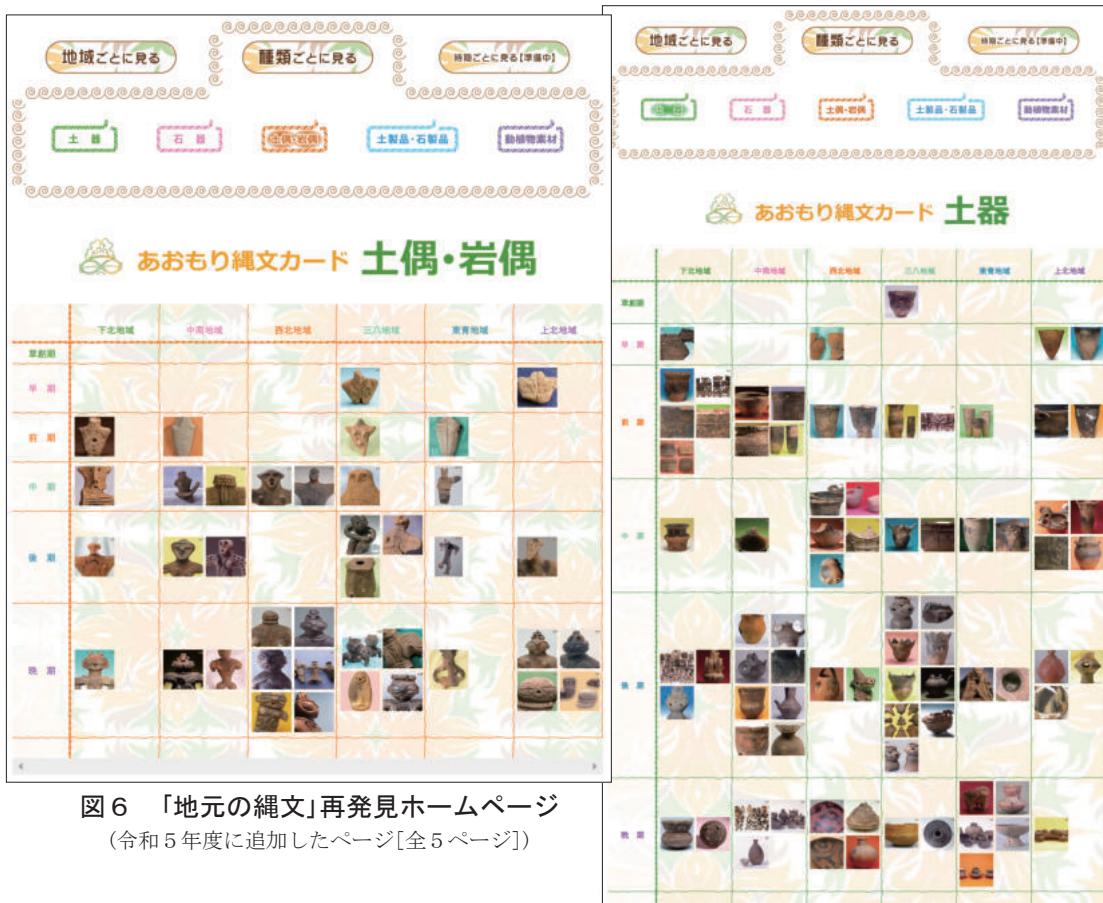


図6 「地元の縄文」再発見ホームページ  
(令和5年度に追加したページ[全5ページ])

表6 ホームページ訪問者数  
(令和5年度は2月までの集計)

年度	月	HP訪問数	訪問者数	1日平均	備考
令和3年度	4	1,574	777	52.5	
	5	969	534	31.3	
	6	1,560	872	52.0	
	7	1,649	920	53.2	
	8	1,881	935	60.7	
	9	1,654	822	55.2	
	10	1,831	967	59.1	
	11	1,722	920	57.4	
	12	1,745	870	56.3	
	1	1,641	858	53.0	
	2	1,610	856	57.5	
	3	1,628	904	52.6	
令和4年度	4	1,611	920	53.7	
	5	1,517	920	49.0	
	6	1,606	987	53.6	1)
	7	1,946	1,226	62.8	
	8	1,811	1,061	58.5	2)
	9	3,448	2,248	115.0	3)
	10	3,431	2,155	110.7	
	11	2,915	1,735	97.2	4)
	12	2,427	1,461	78.3	
	1	2,423	1,518	78.2	
	2	2,083	1,299	74.4	
	3	2,185	1,406	70.5	
令和5年度	4	2,302	1,531	76.8	
	5	2,438	1,572	78.7	
	6	2,843	1,847	94.8	
	7	3,042	2,032	98.2	
	8	2,776	1,789	89.6	
	9	3,914	2,487	130.5	5)
	10	3,187	2,134	102.9	
	11	3,456	2,253	115.2	6)
	12	2,610	1,725	84.2	
	1	3,032	1,883	97.9	
	2	3,170	2,119	109.4	
	3	—	—	—	
合3計		19,464	10,235	53.4	12ヶ月分
合4計		27,403	16,936	75.2	12ヶ月分
合5計		32,770	21,372	98.1	11ヶ月分
令3から		13,306増	11,137増	44.7増	
令4から		5,367増	4,436増	22.9増	

1) 令和4年6月：これまでのHPをリニューアル

2) 令和4年8月末：「地元の縄文」再発見特設サイト』をアップ

3) 令和4年9月上旬：「あおもり縄文カード」No.1～100を配布開始

4) 令和4年9月17～18日：再発見フェアinしまきたを開催

5) 令和5年9月中旬：「あおもり縄文カード」No.101～100を配布開始

6) 令和5年9月16～18日：再発見フェアinさんばらを開催

7) 令和5年11月11～12日：再発見フェアinせいほくを開催

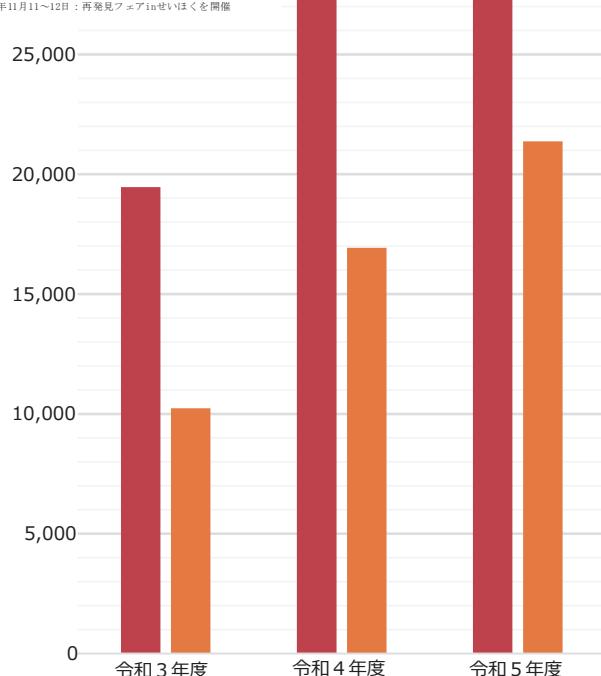


図7 過去3年の訪問数と訪問者数  
(■訪問数 ■訪問者数 令和5年度は11ヶ月分の集計)

\*訪問数……1日あたりのアクセス回数（1日1人5回アクセス=5）

訪問者数……1日あたりの訪問者の人数（1日1人5回アクセス=1）